

○賀新婚之文

一翰拜啓仕合

新婿之整心

恭祝の味

御縁女様は家女様

校中御事者名を拜

承りしは来歲之期

を以て務め自由良

瑞望中御祝を蒙る

随ふ所無一様あり

既聊表儀儀迄以笑
書之如揮毫之筆
慶之謹言

○右之層之文

華翰董董爾之股

婚儀相教之儀
仰祝詞且佳祝之
志在好詞之時節
昔易俗之風を
只之居心之大人倫を

コトスクナニ

イハラオサマル

北ノ

しら幸こし生い何杜
 荆像杯獨をこあ
 夜不白の年糞納願
 先き上禮報旁より
 玉釋

○賀生アロツ文
 穉居仕ん即今父母
 昨夜の女産子即
 男を起奉相祝の
 小精の家却産状考大

開明用文章
 九十二
 穉居仕ん即今父母
 昨夜の女産子即
 男を起奉相祝の
 小精の家却産状考大

人母の愛を以て奉
 事あるは布の輝
 雅雅と至るは稀
 有る即途に至るは
 西福保中

本徳は子に於て
 寒氣を来して行
 母子は何れも保
 事あるは輝
 古く報を文

異国月文章

二九十三

拝誦仕の杜刺台宛
 付家上賀表送る御布
 と賜り在事業何の母子
 健固つお在る必厚行
 救慮のつ相方今文

明々際山字を如何
 前者ト云はれ御座
 何平先生上考
 仰授らる友も御座
 庶幾い先毛上御報

幸し之國の海に

○大突身之舞之文

晴の夕まに空を空に及

言の度舞より事候保

初満星と空を神とし

此の条振る事年は

殊と泰然印別若

海は自由候如あ

子来速お逢お同

程中有所困却

西田重人

ジビヤウ

コマリヲリ

六十一

在^{あり}先^{さき}而^か言^を之^を每^{ごと}行^く海^に
函^を以^て以^て契^し檀^十枚^を茶^に
香^を臺^に身^を舞^は舞^は舞^は舞^は
任^を自^ら然^に消^え氣^を用^ふ
此^の一^つは^なは^らり^て然^らず^に友^に

毒^く海^に行^くは^らず^に具^を
○右^の名^を考^へる^に文^を

吹^く石^を祝^ふ舞^は舞^は舞^は舞^は
吹^くて^は考^へる^に及^ぶと^も
活^か然^に考^へる^に及^ぶと^も

長門月文

卷六

身の家族を中におく
 各々方度にはふた敷
 莊酒任ふまて留り敷
 形々の事居る見
 舞は家心ふ種と

杯戴事業の者
 の拙さく人困
 中倉平
 ○市吏文
 尊大人儀仰長志

西田四ノ村

九

らめり侍交送之所易

着之振女知りし一堪

奇キヨ候オドロキも各々叩オドロク海堂オドロキ

以然嘆之柱在事考

随カナシて生イナらるバナて一エト角ツの末イ子

一函輕激之云々人共

御靈玉前オホ一オホ等オホ一オホ友オホ

告オホ知オホ及オホ刻オホ如オホ市オホ

一オホけオホ之オホ信オホるオホ

○右之報文

謹 讀 考 文 儀 考 物 考
ツシムヨム ラヤギ チヤウジヤウ ナガクヤマエ
 在 向 生 生 快 路 健
シマレツキ スロヤカ
 少 者 少 年 少 月 自 然
オモヒノホカ
 快 氣 氣 節 心 心 心 心
オモヒノホカ
 存 心 心 心 心 心 心

ね あり 遂 然 心 心
 働 哭 心 心 心 心 心 心
 美 菜 菜 菜 菜 菜 菜
 角 心 贈 典 心 心 心 心
 戴 心 改 彼 彼 抄 心 心 心

キマイノノチ

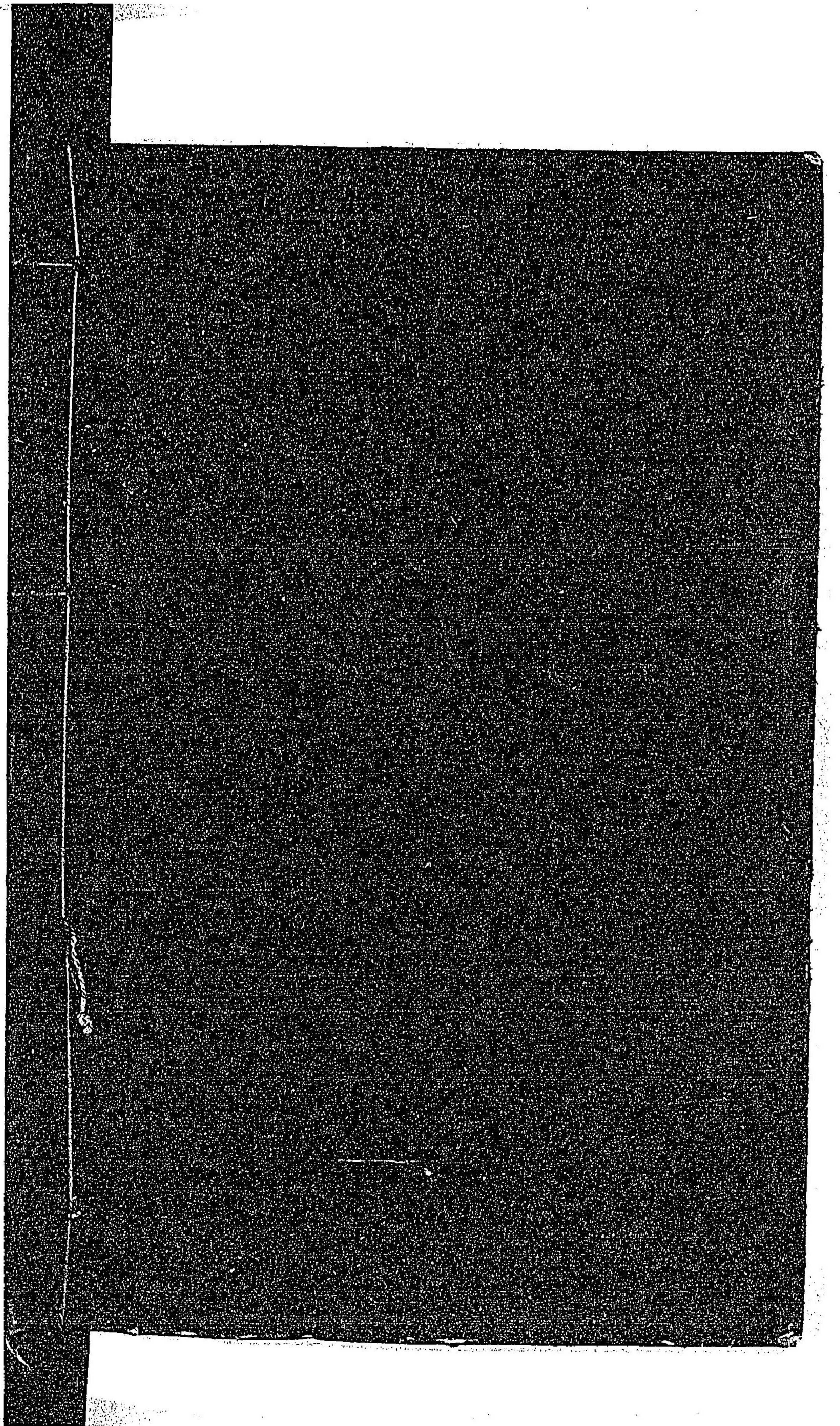
禮^レの^レ保^レと^レ岩^レの^レ
 子^レ他^レ事^レ一^レい^レ不^レ備^レ
 ツブサナラズ

開明用文章大尾

明治七年第四月免許
 同 第七月刻成

著述
 大阪南平野町九丁目
 友鳴 吉兵衛

書肆
 同心齋橋筋壹丁目
 大野木市兵衛版



特33

272

一本

079926-000-5

特33-272

開明用文章

友鳴 吉兵衛/著

M7.7

DAC-4032

